



AA日本ニューズレター

No.176

■ 100万人に伝える幸せのメッセージ(退任ご挨拶として)

A類常任理事 荒木 龍彦

1期2年の間、A類常任理事の大役を務めさせていただきました。仕事の都合により退任いたしますが、在任中多数のメンバーの皆様とサービスの活動をご一緒させていただき、たくさんのお教養いただきましたことに心から感謝申し上げます。

期間中、多くの回復のストーリーに接することができ、AAのコミュニティとプログラムのすばらしさを改めて実感しました。AAの幸せのメッセージは、いまも苦しんでいる全国100万人のアルコールに伝わってほしいと切に願う気持ちです。そしてメッセージを受け取った人がAAにつながるかどうかについては、私たち関係者の果たすべき役割も大きいかと思えます。今後は、全国のAAメンバーの方々と連携しながら、一人でも多くのアルコールの方々がAAにつながるよう仕組み作りに努力していきたいと思えます。

その目途は、AA日本の50周年(2025年)の時点でのメンバー数5万人。

この数字は、人口が2倍のアメリカでAAメンバーが140万人いることを思えば、決して不可能な数字ではないはずですが。達成の可否はただ一つ、AAの方を含め関係する人誰もがその気になって取り組んでいくことができるかどうかだと思います。

それはお酒の問題で苦しんだまま人生を終えるかもしれないアルコールと、その周囲の人々が、多数救うことになるかもしれない、真に価値のある取り組みです。みなさんも、残す人生を、みなさんの貴重な体験を生かして、同時代に生きる人々が幸せに生きられるようにすることに充ててみませんか。私は、これからも、そうしようという方々と関わらせていただき、手を携えていきたいと思っています。できない理由ではなく、どうしたら可能であるのか、今、何をやめて何をすることが必要であるのかを、それぞれが思い描く目標に照らして明確にし、進めていきましょう。

今後ともよろしくお願ひいたします。

■ 一夢中

B類常任理事中村

心からの感謝を込めて、この一文を私の家族、ホームグループ、そしてAAプログラムと私の理解するハイヤーパワーに捧げます。

4年前、私がグループからお預かりしたB類東日本圏地方常任理事の任期を終えますのでグループにお返し致します。

後事は、自ら集会で立候補の意思を表明し、地域のグループから後押しを受けて、第21回評議会で選ばれた新体制の常任理事会へと引き継がれます。

私は、第1~2回評議会の評議員でした。その私が、B類常任理事の役割を預かって再び評議会の場に辿り着くまで16年の歳月が必要でした。その間、4度の立候補をしました。落ちる度に仲間は「ハイヤーパワーは、今はお前の出番では無いと云っているだけさ!」と、慰めにも励ましにもならない優しい言葉を、その都度掛けてくれていたのを思い出します。

この4年間を今思い返すと瞬間の夢のようです。役割を通じて出会った方々から手厳しい率直なご意見を戴き、その一人一人と交わした言葉のやり取りの中に、AAゼネラル・サービス活動への熱意と確かな手ごたえを実感しました。

私は、今回の役割に向き合う時、元NY.GSO マネージャーのG氏から直接口伝された『サービスの原理』を心に取り組みで来ました。私は、彼からこれを何時か日本のメンバーに伝えて欲しいとその時に頼まれたので、今回、退任の挨拶としてこの話をグループの皆さんにお伝えしたいと思います。

彼は、『サービスの原理』として「サービスの難しい用語を多用して伝えてはいけない」と云います。サービス用語を多用すると、本来自分たちに身近な話題が無関係に感じられるからです。私も、サービスに関して熱弁を振るえば振るう程、メンバーの関心は薄れて行く事を実感していましたので、この話には説得力が有りました。では、どうするのか?彼は、身近な話題に触れながら、冗談交じりに笑える話をして問題意識を掘り起こし、サービスが如何に楽しいものなのかを伝える事、と云う。

私は、これは中々出来ない相談だ!と思った。しかし、彼はいつも葉巻をくわえながら多くのメンバーに自らの失敗談を語り掛けては周囲の笑いを誘っていた様子を思い起こす度、成程そういう事なのかと頷いた。

私たちは失敗を恐れる。特にサービス於いては、用語も煩雑で中々理解し難いから尚更だ。

しかし彼は云う、

もし私が学者を望んだとしたら、世の中にはあなたたちより優れた人たちがたくさんいる。

あなたたちが選ばれたのは、あなたたちが世の中から見捨てられた者だったからである。

あなたたちは、酒飲みとしての長い経験によって、いたるところに居るアルコールの、孤独な心があげる悲痛な叫びに、謙虚に耳を傾けられるようになっていくか、これからそうなれるはずだからである。

あなたたちがAAに入った時に、自分が認めたことを、いつも忘れないでいるようにしなさい。自分が無力であり、自分の意思と生き方をわたしの配慮に進んで委ねようとするときにこそ、助けが得られるということ。

■4年間本当にありがとうございました

+++++

B 類常任理事星

4年前、何人かのメンバーから背中を押されて常任理事に立候補しました。その時には、実は立候補するという噂の方がおられて、選出選挙になるのではないかと覚悟していました。けれど、ふたを開けてみると信任投票だけということになり、あっさり常任理事になることが決まる運びになってしまいました。皆さんのしもべとなるからには、それなりのことを達成しようと思っていたのも確かなのですが、とうとう退任の挨拶を書く時期がやってきた今は、結局ほとんど何もできなかったな、という感触だけが残っています。

私の夢は(希望ではなくて)「日本のAAメンバーが5万人～10万人になる日をこの目で見たい」というものです。そのために、なにがしかできるのではないかと考えて常任理事になったのは確かです。けれど、私たちの常として「思い通りにはならなかった」のです。AAメンバーの数は少しずつ増えてきていると言われていますが、正直なところ増えた実感はありません。確かにグループの数は増えてきています。ですが、1つのグループが割れてもっと人数の少ないグループがいくつかできて、全体の数にはつなげていない、というのが実態ではないでしょうか？

数ではなくて中身なんだ！と思われる方も大勢おられることでしょう。それはそうなのですが、今苦しんでいるアルコールが100万人(別の数字では240万人)いることを考えると、救いの手をつかんだ人たちがあまりにも少なすぎることを痛感せざるを得ません。もう一つの自助グループはもっと事情がきつくて人数が減ってきている上に高齢化が進んでいるそうです。どちらかにつながればいいのではなからうかと考えても、助かる方法を見つける人たちが少なすぎるとは思いませんか？アメリカ/カナダでは、アルコールが1000万単位で存在するのにAAメンバーが100～200万人います。割合を考えてみたら日本でもAAメンバーが10万人を超えても不思議ではないはずですよ。

そのためにも何かできることがあればしたい、と思って常任理事という重責を引き受けることにしました。ところが、やらな

ければならないことは思った以上に多く、自分がしたい方向にはなかなか動くことができませんでした。やはり評議会を含めたゼネラル・サービスに関わってこうとする人たちが今最もしなければならぬのは世の中にAAを知ってもらうこと(広報)だと感じています。幸い、その方向に何名ものメンバーが目を向けようとしてくれています。お願いしたいのは、もっと多くのメンバーが、グループが、地区が、地域が広報に力を入れてくれること、広報のためには何をしたらいいかを考えること、そしてそれを実際の行動に移していくことだと思うのです。JSOが、常任理事会が自分たちのために何をしてくれるかではなく、自分たち一人一人がAAのために何ができるかを考えようではありませんか。

そして、最後に常任理事の役割を務めながら感じたことを書いておきたいと思います。一つは献金のことです。今年の評議会で、個人献金の上限引き上げが勧告されました。それと同時に、亡くなったメンバーの思い出として遺贈献金することも認められました。献金は自主的にするものなので、もっと各グループからの献金を、とはお願いしにくいかもしれません。けれど、AAのおかげで回復して財産もでき、今は昔からは考えられないような生活をしている人たちは大勢います。そういう人たちにお願いします。JSOやセントラル・オフィスに直接個人献金することを考えていただけませんか？その献金が延いては今苦しんでいるアルコールのためになり、一人のアルコールが助かるとその周辺にいるおそらく10名以上の人たちが助かる、ということをお願いしたいのです。

もう一つは書籍を利用させていただきたい、ということです。AAメンバーの数は少しずつでも増えて行っているはずなのに、書籍の売り上げは減ってきています。もっと積極的に書籍をミーティングで使っていただきたいと思います、そして個人で所有していただきたいと思います、というのが私の願いです。書籍の中には、AAプログラムの神髄が詰まっています。それを利用しない手はないと思うのです。

最後に、この4年間本当にありがとうございました。まだ私のサービス活動が終わったわけではありません。メッセージや広報、自分ができるところをやっていきたいと思います。どこかで軌道が出会うこともあろうかと思いますが、そのときには、1メンバーに戻ったマイクと一緒にプログラムをやりたいと思っています。

■心から「ありがとうございます」を贈ります

+++++

WSM 評議員野崎

振り返るとかなり長い間AAの全体サービスに関わらせていただいた。おかげさまで飲まない生き方がどうにか続けられたようである。

たくさんの人たち(AAメンバー、メンバーを取り巻く人、AAの友人などなど)との出会い、ふれあいの中で多くの経験ももらい、自分自身の生き方を身の丈サイズに、そして成長を常に目指して歩くことができた。

